

I'm home! Tokamachi

わたしがわたしに、帰る場所。

I'm home! Tokamachi

いつも近くにあったから、
気づけなかったこと。
離れたからこそ、見えたこと。
どんな時代の変化の中でも、
あなたがあなたで
いられる場所はどこですか。
わたしがわたしに、帰る場所。
ただいま、十日町。

バックナンバー



2020年 8月号
vol.01



2020年 12月号
vol.02



2021年 8月号
vol.03



2021年 12月号
vol.04



十日町市U・ターン情報誌

I'm home! Tokamachi

2022年 8月号 vol.5

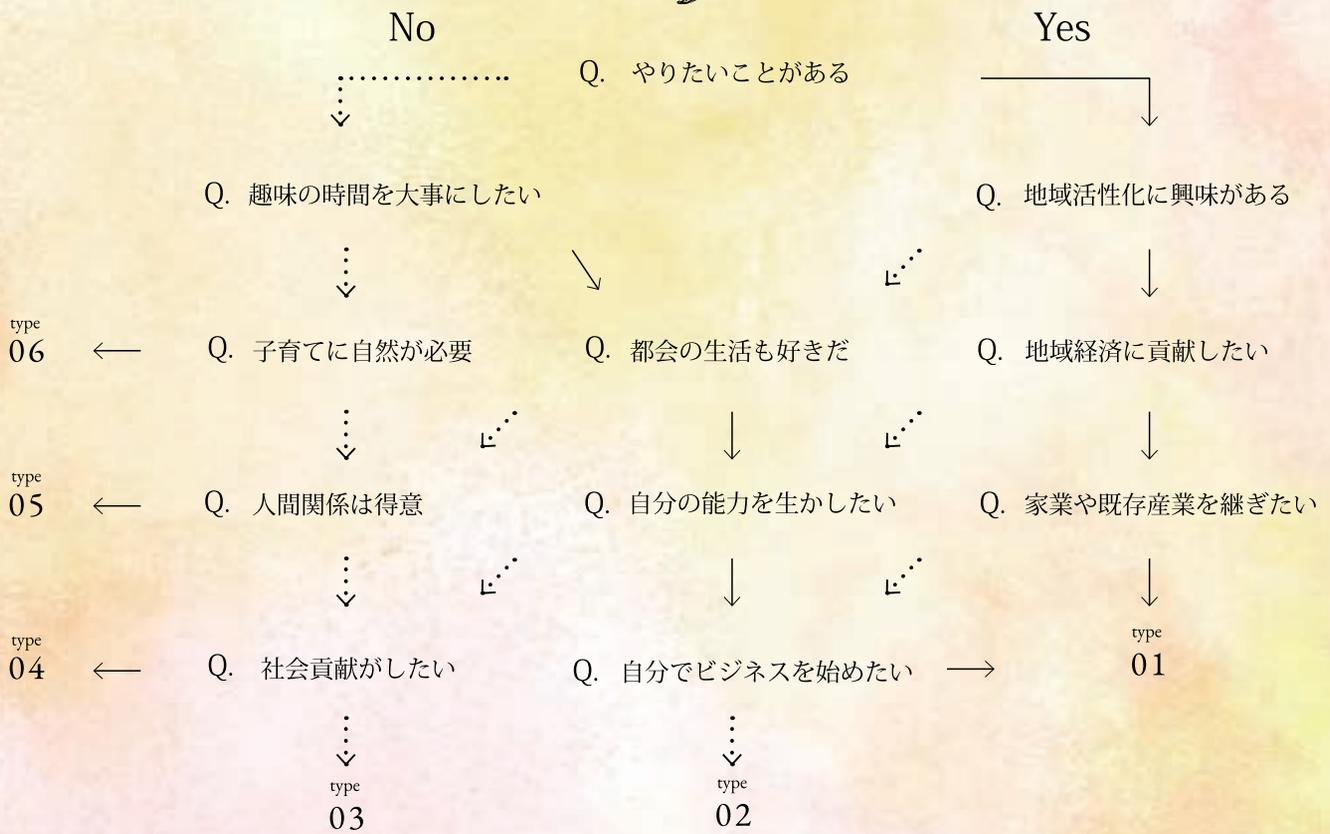
CONTENTS

- 03 あなたは何タイプ?
U・ターン移住診断チャート
- 04 移住者インタビュー
[十日町市で気づいた幸せのカタチ]
波多野耕大さん
- 08 雪の日が待ち遠しくなる
「暮らし」のデザイン
[Snow Rich Tokamachi! 雪国居住空間コンテスト]
- 12 十日町市の企業の新たな挑戦
[システム開発が切り拓く十日町市の未来]
株式会社オスボック 代表取締役社長 中川一郎さん
- 14 移住に関する
補助金・サポート制度のご紹介

あなたは何タイプ？

U・I ターン移住診断チャート

Start!



 type 06	 type 05	 type 04	 type 03	 type 02	 type 01
Family type	Relationship type	Community building type	Slow Life type	Changing type	Start-up type
のびのび 子育て	関係人口	まちづくり	スローライフ	環境の変化 転職	起業 継業
<p>子供を自然環境の中で育てたい。理想はあるけど、現実的な部分で不安がある。子育て世代のリアルな話を聞いてみよう。</p>	<p>都市圏の仕事も暮らしも嫌じゃない。まずは副業やイベントをキッカケに地域社会との関わりを作ろう。二拠点居住も◎。</p>	<p>十日町市をもっと良くしたい。得意な分野が活かせる市民活動の団体も探してみよう。地域おこし協力隊もオススメ！</p>	<p>都会より地方でのんびりした暮らしがしたい。支出を見直し、収入源を確保しよう。農を生活に取り入れてみるのも良いかも。</p>	<p>今の状況を変えたい。地元に戻って働きたい人。仕事がないと言われているけど、能力やスキルを活かして職場を探そう。</p>	<p>仕事のやりがいと暮らしの両方を充実させたい。地域の余白はまだ多い。活躍するフィールドを自分でつくろう！</p>

INTERVIEW

移住者 インタビュー

十日町市への移住を決断し、生活をしていく中で

人生がどのように変わっていったのか。

子どもの頃には気づかなかった魅力、外からは見えなかった

十日町市の姿。人と関わる中で深まっていく

移住者のライフヒストリーを掘り下げます。

type02 / 環境の変化・転職

は た の こ う だ い
波多野耕大さん

十日町市で気づいた幸せのカタチ

小

さい頃に通った祖父母の家。幼少期の十日町市での記憶が今の生活に影響している移住者は少なくありません。仕事に悩んだとき、ライフステージが変わったとき、子育てが始まる時。これからのライフスタイルを考えたときに、幼い頃に見た十日町市のことを思い出す方も多いのではないのでしょうか。

波多野耕大さんは新潟県見附市出身。祖父母が暮らす十日町市に住もうと思っただきっかけは、当時の仕事に悩んで、なんとなく十日町市を訪れたときでした。最近では、Uターン、Jターンに並んで「孫ターン」などとも言われている移住のカタチ。波多野さんのライフヒストリーと暮らしを掘り下げました。

高校卒業後は名古屋へ

波多野さんは高校時代を南魚沼市の寮で過ごし、大学進学を機に名古屋へと移り住みました。初めての都市での生活は楽しくもあり、故郷の良さを再確認する時間でもあったといいます。

「名古屋には何でもあって、どこにいても人がいて、何か不便を感じるようなことはありませんでした。でも、常に誰かと繋がっていることを迫られているような感覚もあって、自分には合わないなと思いつつ暮らしていましたね。一人に

最初は取材に緊張していた波多野さん。後半は自然な笑顔を見せてくれました



なれること』は贅沢品だったのだなと名古屋での暮らしで気づきました」

誰もいないところへ行つて、ただポーツとすることが好きだった波多野さん。すぐ近くに自然があって、星を眺めたり誰もいない丘の上で休んだりできる環境が、実は特別だったことに気がつきます。

「都心ってそういう環境や空間を得るためにはお金がかかるんですね。公園に行っても必ず誰かいますし、気分転換をしたいと外に出て人も人がいない場所なんてないじゃないですか。そういう人が多いところに、少し疲れを感じてましたね」



休日に訪れる十日町情報館

名古屋での生活を終え、しばらくは長岡市で塾講師をしていました。何か社会に貢献したいという気持ちがありながらも、思ったように仕事が上手くいかず、日々、頭を悩ませていたのだといいます。「教育に携わる人間として、精神的にも余裕を持たないといけないとは思っていたのですが、お金を払うのは保護者の方だけ、授業を受けるのは子どもという関係性が仕事の難しさでもありました。授業が上手くいくときもあれば、思ったようにできない時もある、自分の理想

と現実のギャップに悩んだ時期もありましたね」

そんな時に、ふと訪れたのが十日町市だったといいます。幼い頃に見た景色がずっと心に残っていたそうです。その後も何度か通ううちに、この場所でも一度スタートしたいという気持ちが強くなっていきました。

十日町市での再スタート、塾の開業を志す

2016年に波多野さんは十日町市へ移住し、家庭教師から教育の道を再出発しました。

「生徒さん一人ひとりと向き合う時間が増えてから、仕事も生活も好転はじまりました。家庭教師の中でも20代は私だけ生徒さんと歳が近いからこそ出来ることもあって、長岡市の塾講師時代に感じていた『この仕事は向いていないかもしれない』という考えは少しずつなくなっていき、自信を取り戻すことができたように思います」

実は波多野さんには、引きこもりの経験があります。「学校に行きたくない、でも勉強にはついていかなくてはいけない」そういった焦りや悩みを抱える生徒にも勉強を教えていました。いつしか、



新しい知識や学びを得て、教育に活かす



気に入っている理由は蔵書の多さや絵本の読み聞かせスペースがあること

spot_1

十日町情報館



【施設概要】

1999年に「新しい形の図書館」として開館。内藤廣建築設計事務所が設計、信濃川が形成した河岸段丘をイメージした書架がある。蔵書点数は約17万8,000点(2022年)を誇り、映画『図書館戦争』のロケ地としても利用され、撮影で使われた道具なども展示されている。

data

【所在地】新潟県十日町市西本町2丁目1-1 【電話】025-750-5100
【開館時間】9:00~19:00 【休館日】第4月曜日(第4月曜日が祝日にあたる場合も休館です)
年末年始(12月29日~翌年1月3日) 年10日以内の特別整理期間

「そういった悩みは波多野先生に相談すると良い」と言われるようになり、自分出来ることの1つを見つけたのだといいます。「本当は人生の中で『やらなくてはならないこと』なんてないと思います。学校の評価も大事だけど、全教科全てできる人なんて、なかなかいません。全部を完璧にさせようとするのではなく、悩んだ時に、何か一つでも良いから自分が好きだったことを思い出せるように、好奇心の芽を摘まないようにすることが大事なのかなと思っています」



十日町市街地を見渡すことができる諏訪神社からの景色



夫婦の思い出の場所が十日町に増えていく



季節の移ろいを感じる八箇地区のあじさい公園

その後、波多野さんは「生徒の居場所になるような塾」を立ち上げたいと、行動を始めます。家庭教師として働かれたら、事業計画を立てて物件を調査し、開業の準備をしてきました。

「実は、塾を開業しようと思って物件を借りて、工事を話す話まで進んでいたの

ですが、調査をしてみると工事ができない部分が見つかったり、運営の課題も見えたりして断念しました。でも、事業計画も作ってましたし、この塾を立ち上げようとした経験拾ってくれるところがなかったのです」

現在働いている次世代型個別塾 Tea ms は、そういった熱意を汲みとり、すぐに十日町校の開校に至りました。現在、開校4年目を迎え、多くの生徒の学びの場所になっています。

自然が近いからこそ 得られること

十日町市に移住したことで、仕事だけではなく、波多野さんの暮らし方や趣味にも変化がありました。住み始めたからこそ、幼少期には知らなかった地域の魅力も気づけるようになったといいます。

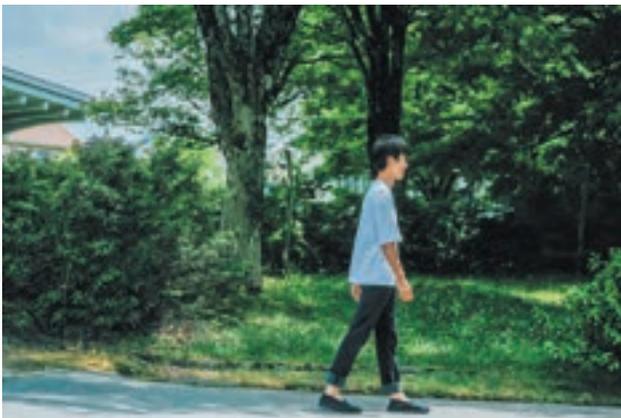
「十日町市に住み始めてから気に入ったスポットが増えましたね。十日町情報館は他の地域にはないようなデザイン性の高い空間と多様な蔵書。休日には、読書をしたり本を借りたりもします。絵本も多いので、子育て世代には嬉しいですね。隣接する総合体育館のトレーニング室にもよく行きます。都心に比べて人が多すぎるといってもなく、快適です」

移住をして、しばらくは単身で生活していた波多野さんでしたが、地元的女性と出会い、結婚したことで、さらに世界が広がりました。

「地元の人との繋がりが出来てからは、今まで行ったことのない飲食店や季節の

変化を感じられるあじさい公園、黄桜の丘公園、赤倉の大池に毎年行くようになりました。キャンプができる清田山キャンプ場やナカゴグリーンパークにも夫婦で行くようになりました。今までも趣味でキャンプやアウトドアをしていましたが、十日町市に住み始めてからは頻度も質も高まってきたと思います」

いつでもふらつとアウトドアができるように、車にはキャンプ道具を常に積んでいるという波多野さん。ホッと一息つきたい時には諏訪神社のベンチに座って、まちを眺め、また頑張ろうという活力を得ているのだそうです。



情報館の裏の広場と道も気に入っている場所の一つ

生きてるだけで 幸せだと感じられる暮らし

「地域の人たちにも感謝しています。よそ者の僕をイベントやお祭りに誘ってくれて、あたたかく迎え入れてくれたから、ここでこれからも暮らそうと思えています。都心だと常に上向きじゃなきゃいけない、変化し続けなければいけないというプレッシャーがありました。十日町市は『そのままでもいいんだよ』って受け入れてくれる土壌や安心感があるように思います」

今年の10月には新たな家族が増える予定の波多野さんは「十日町市に移住しなければ、得られなかった幸せがたくさんある」と振り返ります。

「子どもたちにも、生徒たちにも『地元が大好き』と思って欲しい訳ではなく、身の回りにおける魅力や幸せに気づけるように育ってもらえたら良いなと思います。生きてるだけで幸せなんだと感じられるようになって、それが結果的に十日町市が好きなという気持ちになったらいいですね。ライフステージが変わっていく中で、

不安なこともあります。この地域で子育ても頑張っていきたいです」

肩の力を抜いて暮らせるのが魅力の十日町市。同じように移住を考えている人がいるなら、肩肘張らずに、まずは遊びに来てみてはいかがでしょうか。その時に住んでみよいかと思えば、焦らず準備をしたら良い。いつでも変わらざるにあなたを受け入れてくれる土壌が十日町市にはあります。



上) 清田山キャンプ場はお気に入りのキャンプスポットの一つ
中) 黄桜が満開の季節にはピクニックにも
下) ベンチで休む時間を大切にしているという波多野さん。お気に入りの諏訪神社のベンチで気持ちよくインタビューに答えてくれた

spot_2

チームズ

次世代型個別塾Teams十日町校



【施設概要】

ICT教育(オンライン学習)や専門カウンセラーによるカウンセリングを取り入れた次世代型の学習塾として、全国模試1位の生徒の誕生、偏差値30上昇など、驚きの学習成果を多数実現。様々な理由で塾に通えない生徒たちへの自宅型学習コース「マイハウスプラン」など個別カリキュラムにも力を入れている。

data

【所在地】新潟県十日町市本町3丁目353-1

【電話】025-761-7738

【営業時間】14:00～21:00(平日)、10:00～17:00(土曜)



PROFILE

はたの こうだい
波多野耕大さん

昭和63年9月生まれ。新潟県見附市出身。高校進学を機に南魚沼市の学生寮で単身生活をする。大学進学と共に名古屋で暮らす。その後、塾講師などを経て祖父母がいる十日町市の心地良さに惹かれ、移住。地元女性と結婚して十日町市での暮らしを楽しむ。

暮らし体験施設部門 優秀賞

TITLE

雪間のもてなし

大阪工業大学大学院 上田 雄貴さん

「利雪」の考え方によって生まれた雪国文化や、雪囲い・ぼんやら洞といった雪国特有の建築文化を取り入れた居住体験施設と地域交流の提案。豪雪への順応が生んだ雪国の暮らしの知恵を活かしつつ、施設利用者と地域住民の持続可能な関係性も考えられたプラン。



雪の日が待ち遠しくなる

「暮らし」の デザイン



Snow Rich tokamach! 雪国居住空間コンテスト



テーマは「雪が待ち遠しくなる、家族の暮らし」

日本有数の雪国・十日町市の冬でも快適な生活が送れ、雪国だからこそ楽しめる居住空間のプランを競いました。第1回開催では、以下の2部門に分けて公募を行いました。

「暮らし体験施設部門」応募総数25点、

「子育て世帯向け住宅部門」応募総数33点の中から、一次書類審査を通過した各部門5作品の出場となったコンテスト本選会が、2022年2月8日(火)に行われました。

ここでは本選会で選ばれた2部門の受賞作品を紹介します。

公募部門

暮らし体験施設部門：雪国を楽しめる暮らし体験施設(シェアハウス、ゲストハウス等)の新築プラン、既存施設(空き家活用含む)のリノベーションプランの提案で、20代～40代の利用者を想定したプランであること

子育て世帯向け住宅部門：雪国の生活を楽しめる個人向け住宅の新築プラン、既存住宅(空き家)のリノベーションプランの提案で、30代～40代の子育て世帯を想定したプランであること

雪原学舎

TITLE

せつげんがくしゃ
雪原学舎

株式会社 丸山工務所



雪と共生する十日町市の新しい価値を見出すため、廃校を活用した「冬に特化したキャンプ場」の提案。「地元の人を楽しめるから訪れた人も楽しめる」という考えのもと、学校という建築物を活かしたプラン

PROFILE

株式会社 丸山工務所

若手社員チーム

新潟県十日町市に本社を置く、総合建設会社。提案チームは建築、営業、総務と部署を越えて結成された20代-30代の若手社員チーム。ターゲットとなる若い世代へ届ける提案のためにアイデアを出し合いながら、建築設計に反映させた。



Q3 冬(雪)の暮らしを楽しむための コツ・ポイント

雪国の生活って二面性があると思います。十日町市に住んでいれば、雪が降った時に除雪のことが頭をよぎって、億劫な気持ちになる時もある。でも同時に、夜の新雪を踏みしめながら家に帰るとき、ライトに照らされてチラつく雪が綺麗だなと感じる時もある。なんだかんだで雪国の暮らしに満足している自分を見つけることが楽しむためのポイントなのではないかと思います。

Q4 十日町市に対する エール・メッセージ

雪国の暮らしというのは「受容すること」ではないかという話から、このプランは始まりました。雪国での生活を長年積み重ね、同じ感覚や価値観を共有している仲間がいる。これは、とても貴重なことです。自分が楽しいと思うことや感覚を仲間達と共有できる場所として、雪原学舎が実現できると良いと思います。

Interview

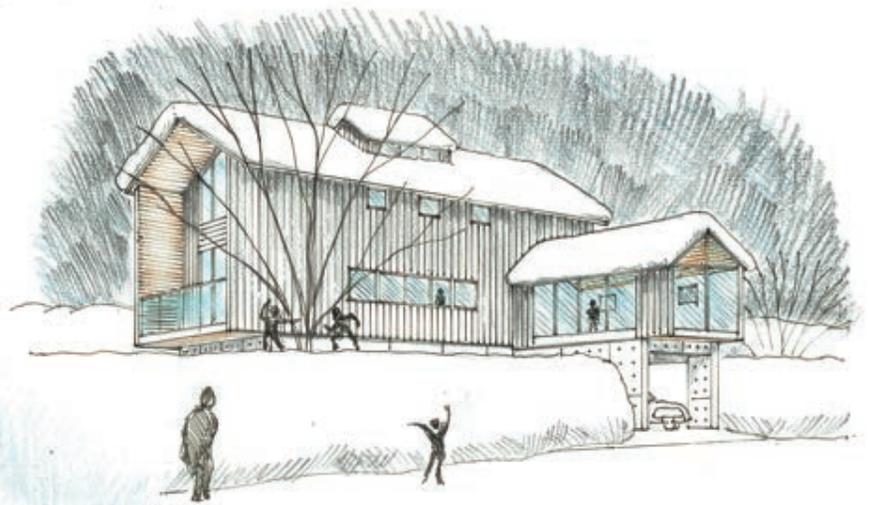
Q1 応募したキッカケ

これまで建築関連のコンテストに応募したことはなかったのですが、やはり地元、しかも雪国がテーマとなると『これまで雪国で仕事をしてきたという自負』がありましたので、やってみようとなりました。

Q2 このプランのアピールポイント

雪を受け入れて生活を営む「感覚」は暮らしている人にしか分からない。その感覚を伝える場所として選んだのが学校でした。十日町市民が、生活する中で通っていた学校であれば、雪国の暮らしを疑似体験する場所として最適だと考えたのです。雪を使ったレジャーやスノーアクティビティは数多くありますが、キャンプやグランピングの施設とすることで『雪の中で時間を過ごす体験』をじっくり味わえるように設計しました。外から来る人たちに雪を気軽に楽しんでもらいたいと思っていますが、室内でのグランピングを主とした廃校キャンプ場を特に地元の若い人たちにこそ、使ってもらえたら嬉しいですね。

子育て世帯向け住宅部門 最優秀賞



TITLE

子供と楽しむ雪国の家

HRNアーキテクト ひらの えいこ 平野 永子さん



十日町市の自然や文化を感じ、季節を通して子供たちが健やかに育ち、人々との交流ができる住宅プラン。夏は涼しく冬は暖かい空調換気計画、雪国の暮らしを楽しむ平面計画、季節が感じられる外構計画など、子育て世帯にとって楽しく快適な要素が多く取り入れられたプラン。

PROFILE

HRNアーキテクト

ひらの えいこ
平野 永子さん

一級建築士・カラーコーディネーター・日本建築学会正会員。1963年大阪府生まれ。関西大学工学部修士課程卒業。子育てのため一度建築業界を離れるが2020年2月にHRNアーキテクト一級建築士事務所を設立。建築・インテリア・ランドスケープに至るまで幅広く企画・設計業務を行う。



Q3 冬(雪)の暮らしを楽しむためのコッポイント

一言で「雪」といっても様々な表情を持っていると思います。この家は、1階には冬は雪の壁に囲まれた子供の遊び場となる土間、2階には雪原風景を楽しめるサンルームやフリースペースを設け、家全体で色々な雪を楽しめるようになっています。雪を雪国の当たり前前に捉われずに、雪国でしか見られない景色や感じられないことに気づいていくことが冬の暮らしを楽しむポイントではないでしょうか？

Q4 十日町市に対するエール・メッセージ

調べれば調べるほど、雪国って素晴らしいなという気持ちが強くなりましたね。夏と冬では景色が大きく変わる。そんな環境を楽しめるのが十日町市の魅力なのではないかと思っています。私たち建築家はハード、梓組みをつくることしか出来ません。住人が家を育て、暮らしをつくっていくのです。この設計が雪国での暮らしを楽しむためのヒントの一つになってくれたら、とても嬉しいです。

Interview

Q1 応募したキッカケ

最初は2m以上の積雪が想像できませんでしたが、雪国の暮らしについて調べていくうちに、雪を知らない私たちの目線で「雪を楽しむ」ための提案ができるのではないかと感じて応募しました。

Q2 このプランのアピールポイント

十日町市の美しい自然を一年中楽しめるように窓は大きく、季節や時間の変化を感じ取れる室内空間にしました。また、越屋根に開口を設け、冬は自然光を多く取り込み、夏は自然換気を促すエコな住宅になっています。雪国での子育てが少しでも楽しいと思えるような暮らしの動線設計もポイントです。

移住者が住むことを考えた時に地域とwin-winの関係を築けるようにすることが大切だと考えたので、遊びと交流の土間を設計の中に入れて地域の人と集まれる空間を取り入れたのもアピールポイントです。

子育て世帯向け住宅部門 優秀賞

TITLE

「春・夏・秋・冬」遊ぶ家

新潟大学工学部、新潟大学自然科学研究科、和洋女子大学家政学部

棒田 恵さん、川上 陸さん、小林 勉さん



テレワーク空間や地域の人々との交流が生まれるための工夫など、現代の子育て世帯移住者のニーズも汲んでいるプラン。



中門造り、囲炉裏などの伝統的な雪国建築文化を取り入れた設計と、四季のアクティビティを楽しめる「二重土間」の活用が特徴の住宅プラン。



屋根消雪、家と外の間の中間領域、高性能（耐震と高気密・高断熱）、地材地建と木育を取り入れた雪国での平屋暮らしの住宅プラン。

子育て世帯向け住宅部門 優秀賞

TITLE

雪国で平屋暮らし。

株式会社 石田伸一建築事務所

石田 伸一さん



平屋だから実現できる大らかな平面プランニング、インドア・アウトドアリビングがある暮らし、「段差と温度差のない」設計などが魅力のプラン。

INFORMATION

第2回 Snow Rich tokamach! 雪国居住空間コンテスト開催決定!

2022年冬 コンテスト本選会を開催予定です。
詳細は市報とおかまち、十日町市公式ホームページ等で告知します。

第1回コンテストの様子はこちらからもご覧いただけます



NEW CHALLENGES

十日町市の企業の 新たな挑戦

時代に合わせて変化していくことが
求められている現代。
未来を見据えた十日町市の企業が取り組む
新たな挑戦を取材しました。

COMPANY 株式会社オスポック

システム開発が切り拓く 十日町市の未来



株式会社オスポック 代表取締役社長

なかがわ いちろう
中川 一郎さん

十日町市出身。昭和62年6月に株式会社オスポックの前身である十日町ソフト開発株式会社設立をきっかけにUターン。ソフトウェア開発、プロジェクトマネージャー職を経験したのちに、経営企画室に配属。会社組織・人事・社屋建築など多岐に渡る業務に従事。取締役を経て、2019年に代表取締役社長に就任。

山 岳を背にしてまちを見渡すように建てられた社屋。夏にはカモシカが駆け、冬は優しく雪に覆われる当間高原地域に十日町市を代表するIT企業の一つ、株式会社オスポックがあります。

国内のICTインフラを支えているNEC（日本電気株式会社）と十日町市、十日町織物工業協同組合、十日町農業協同組合、津南町による共同出資によって設立され、自治体の業務を支える管理システムから民間企業のシステムまで幅広く手がけているオスポック。故郷を守るIT企業が目指す未来とはどのようなものでしょうか。

本質とは何か考える仕事

「今、社内で意識しているのは、社員一人ひとりが自律して仕事をすることですね。システムエンジニアは上から降りてくる仕事を指示通りやるというスタイルが根付いています。しかし、本質はお客様の課題を解決するということ。一つの課題に対しての解決策に答えは一つではないからこそ、社内でコミュニケーションを取りながら『お客様にとって良いこと』を多方面から追求して、チャレンジして欲しいのです」

中川 一郎さんは昭和62年6月、オスポックの前身となる十日町ソフト開発株



オンライン会議を活用して市内外のクライアントと打ち合わせを行う

式会社が設立された時、故郷である十日町市にUターンすると共に同社へ入社しました。システム運用、プロジェクトマネージャー、営業と開発・運用、そして経営企画を経験してきました。今はその経験を踏まえ社員には「すべてのことを上長が判断や決裁するのではなく、社員一人ひとりが責任と権限の両方を持つて仕事をする組織体制の重要性」を伝えてきました。

「最初は割り振られた仕事をこなすのが精一杯かもしれません。その中から少しずつでも自分はどうしたいのか、何のために目の前の業務をしているのか意識して欲しいのです。なぜ自分の仕事が必要なのか、好奇心や興味を持って取り組んだ仕事が生かされて全体像が見えたときに仕事のやり甲斐を感じられるはずですよ」



十日町市の豊かな自然環境の中でシステム開発ができる職場も魅力的です。

オスポックが手がける自治体のシステムは、地域の公共を支えるために不可欠です。市役所で住民票の交付を受けた時など、暮らしの中で当たり前になっているシステムを自分たちが支えていることを社員に実感して欲しいと思っています。

「これからも時代は確実に変化していきます。それでも、その時代に合ったやり方で地域課題の解決や支援をしていける会社になりたいと思っています。そういった想いを社員一人ひとりに持つてもらえるようにしていきたいですね」

若手チームで始める イノベーション推進室

オスポックの新たな挑戦は、そういった社員の自律性や自主性を高めていく部分にあるのだといいます。地域課題や企業課題が複雑化していく中、最新の技術や考え方に触れる機会を社内でする取

り組みから生まれたのが「イノベーション推進室」です。

「業務時間の中で、学ぶための時間を設けています。有志の若手社員を募集して『人工知能』『ドローン』などのテーマを設けて、新しい知識に触れてもらう。最近では『DX^{*1}』や『SDGs^{*2}』という内容のチームもできて、自主的な学びの場として知的探究心を育てていますね」

そうした仕事以外の学びや新しい知識を得ることで、お客様からもらった仕事書に書かれていること以上のより良い解決策を追求する力を育てて欲しいと中川さんは話します。

「どの現場も目の前の仕事に一生懸命です。だから、新しいことをやるなら会社として時間をつくってあげないといけない。それに伴って、会社自体の古くからの仕組みや決裁の仕方についても見直しで、責任と権限を下へ降ろしていきたいと思っています。そういった取り組みをしながら、在宅ワークや新しい働き方の選択肢も増やして働きやすい職場環境をつくっていく。出社時間や有休制度も社員個人の事情や子育て状況に合わせてながら設計しているんですよ。社員の成長と企業の成長は共にあるのです」

そうした取り組みや社内制度が評価さ

れ、オスポックは『健康経営優良法人2022^{*3}』や『ハッピー・パートナー企業^{*4}』など、優良企業としての様々な評価を得ています。

故郷で働くための 選択肢にして欲しい

高齢化が進むこの地域では、これまで当たり前になっていたシステムも変革に迫られる場面が必ず到来するでしょう。ITで地域を支える企業として、直面する様々な課題に一緒に向かっている社員が必要です。

「私たちは行政システムや行政事務を得意分野として長年やってきました。そういった側面から地域のDX化にも取り組んでいかなければなりません。例えば、ゴミの収集方法など、さらに高齢化が進めば今の仕組みを見直す必要が出てくるかもしれません。地域課題を解決するためにシステムの力でより暮らしやすい地域にしていこう。そうしたことに関わっていただけるからこそ、弊社を故郷で働くための選択肢の一つにしてもらえたらと思っています。」

豊かな自然環境の中で働くことができ、株式会社オスポック。これからの十日町市にとって益々、重要な存在となるIT企業です。

企業 DATA



▶ 株式会社オスポック

住所::新潟県十日町市馬場癸1536番地157

株式会社オスポックは、自治体向け業務アプリケーションの設計・開発を中心に、お客様業務システムの運用・保守、機器販売などさまざまな事業により、県内はもとより多くの県外のお客様へサービス提供を行っています。

〈募集対象者〉

2024年3月卒業予定の方 1day仕事体験(オープン・カンパニー)開催中
中途採用 プログラマー、システムエンジニア、ネットワークエンジニア
【電話】025-750-2020

あなたの移住を十日町市がサポートします！

移住に関する補助金・サポート制度のご紹介

市外からの移住で最大100万円！

※下記の2つの補助金のうち、一方のみ利用可能です。



1. ふるさと回帰支援事業補助金

市外からの移住で「単身」最大40万円、「世帯」最大70万円。
さらに、18歳以下の子どもがいる場合は1人につき10万円を加算
<詳細条件>

- ①令和2年4月1日～令和5年2月28日の間に移住
- ②申請期間は転入後1年以内
- ③転入時点で60歳以下
- ④就業している
- ⑤申請後5年以上、十日町市に定住すること

2. 東京23区からの移住支援金 ※現在受付休止中

東京23区に5年以上在住、または東京圏(埼玉、神奈川、千葉)に在住しながら東京23区に5年以上通勤及び通学していた方が移住すると「単身」最大60万円、「世帯」最大100万円。さらに18歳以下の子どもがいる場合は1人に月30万円を加算

<詳細条件>

- ①令和4年3月1日以降に移住
- ②申請期間は転入後3か月～1年以内(今年度の受付は令和5年2月28日まで)
- ③以下のいずれかに該当
A.新潟県の移住就業促進関連事業を利用して就業または起業 B.テレワーカー
C.60歳以下で、十日町市が定める関係人口に該当
- ④申請後5年以上、十日町市に在住すること

十日町市で新生活を始めよう！
+ 上記の1 or 2を利用した人は
以下の補助金も対象になります。

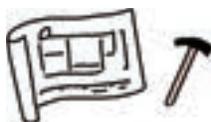
3～5の補助金の組み合わせで最大190万円！

3. テレワーク支援



○移住後もテレワークで市外企業の仕事を続ける方、フリーランスでテレワークをする方が、新たにパソコンや事務用品を購入したりネット回線接続工事したりする費用を最大20万円

4. 新築・中古取得、実家リフォーム支援



○住宅新築に最大60万円
○新築用の土地購入で最大100万円
○空き家など中古物件購入で最大20万円
○移住後の生活のために実家をリフォームで最大10万円

5. 免許取得支援



○運転免許(普通自動車のみ)の取得費用を最大10万円

新生活を始める新婚世帯に 最大60万円！



結婚新生活支援事業補助金

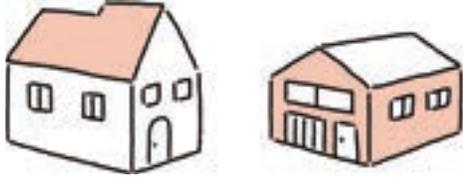
結婚後の新生活のため、令和4年1月～令和5年3月の間に支払った引越しや住宅費用に対して最大30万円。夫婦共に婚姻時点で29歳以下の場合には最大60万円。

<詳細条件>

- ①令和4年1月～令和5年3月の間に婚姻した夫婦
- ②申請期間は令和5年3月31日まで
- ③夫婦共に婚姻時点で39歳以下
- ④令和3年分の夫婦の合計所得が400万円未満
- ⑤申請後5年以上、十日町市に定住すること

家探しをサポート!お試し移住用のシェアハウスもあります。

十日町市空き家バンク



市内にある売却・賃貸できる
空き家情報を公開しています。

空き家を使いたい人と空き家を貸したい・売りたい人をつなげて、移住・定住の促進及び地域の活性化を図るため、「空き家バンク」制度を設けています。市内の売却・賃貸できる空き家情報を、十日町市に移住を考えている方へ市ホームページで提供しています。

シェアハウス



単身移住者向けのシェアハウスが2軒、空室あり。
移住の第1ステップとしてご利用ください。

- 新水シェアハウスは、市街地から車で約20分、上越新幹線浦佐駅からは15分の“ちょうどいい”田舎ぐらし。広い土間の共用スペースは様々な交流イベントに使われています。月額家賃は28,000円から。
- 竹所シェアハウスは、古民家再生のスペシャリストであるカール・ベックス氏によるおしゃれなデザイン。美しい景観の中で、農のある暮らしが送れます。月額家賃は23,000円から。

※詳細は十日町市ホームページをご覧ください。

LINEで市政情報をお届け!

「十日町市公式LINEアカウント」
では、移住に役立つ情報を配信中。
移住を考えている方は
「友だち登録」をお願いします。

「受信設定」から、
『移住・定住』や『イベント・観光』など
自分の欲しい情報を
選択することができます!



【友だち登録方法】



- 1 QR読み取り
- 2 公式アカウントから「十日町市」で検索
- 3 「友だち追加」より「ID検索」で「@tokamachicity」で検索

十日町市の何気ない魅力を発信中!

十日町市公式Twitterでは、
十日町市の日常風景、
市内で起きている
何気ないできごとを
ツイートしています。
ぜひフォロー・いいね
してください!



【フォロー方法】



- 1 QR読み取り
- 2 アプリ内のキーワード検索で「十日町市」または「@tokamachicity」で検索

奨学金の一部を市が補助します!



UIターン促進奨学金等 返還支援事業補助金

大学等を卒業後、十日町市に移住・就労しながら奨学金を返還する若者に5年間で最大100万円

※詳細はお問い合わせください
教育総務課 庶務係
新潟県十日町市水口沢12番地(川西庁舎3階)
☎ 025-757-3118

十日町市での子育てを応援します!



第3子からの 保育料無償化

18歳以下のお子さんが3人以上いるご家庭は、3人目以降のお子さんの保育料無料

子育て支援課 保育関係
☎ 025-757-9169

移住に関するご相談は移住コンシェルジュまで!

主な対象者

1. 十日町市または地方への移住を検討している方

具体的な移住プランが決まっていなくても、まずはお気軽にご相談ください。

2. 十日町市への移住後 概ね3年以内の方

補助金や暮らしに関する情報の案内や、移住後のフォローアップを行っております。



皆様の周りの移住検討者やUターンを希望している十日町市出身の方を、ぜひご紹介ください。移住者を受け入れたい方や求人・空き家の情報などの情報もお待ちしております。

相談の流れ



移住サポーター募集中!

十日町市移住コンシェルジュと連携をして、移住検討者の受け入れや空き家情報の収集にご協力いただけるサポーターを随時募集しています。詳細はお問い合わせください。



- [拠点] asto事務所 住所:十日町市袋町西91番地1
- [開所日時] 月曜日から土曜日 10:00~16:00(年末年始、祝祭日を除く)
- [問合せ先] Tel: 025-755-5444 Mail: tokamachi.iju@gmail.com
- [詳細] 「十日町市移住コンシェルジュ」でご検索ください

アンケートのお願い

QRコードを読みとっていただきアンケートフォームより冊子の感想、取り上げて欲しいことや情報をお寄せください。みなさまからのご意見・ご感想をお待ちしております。



制作チーム

- 企画・文 大塚真 写真 ほんまさゆり
- デザイン 芳川大樹 イラスト ハギワラスミレ
- 制作 株式会社第一プログレス(雑誌「TURNS」)
とかとこ:十日町市の移住者夫婦による編集プロダクション